

## 令和6年度 授業改善推進プラン 第3学年

各教科及び 道徳	学力調査等の結果分析 児童の学習状況	指導上の課題	改善の計画	プランの評価方法
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書を活用することで、本文の叙述から登場人物の気持ちを想像したり、文章全体の組み立てを捉えたりして読むことができるようになってきている。</li> <li>自分の考えをもち、発表している。</li> <li>デジタルドリルとノートで漢字練習をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を手掛かりにして、想像したことを言葉にする経験を重ねる必要がある。</li> <li>文章を抜き出すことが苦手な児童がいる。</li> <li>漢字の読み書きが定着するよう丁寧な指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元ごとに身に付けさせたい「資質・能力」を明確にする。</li> <li>デジタル教科書を用いて、教科書上から簡単に文章を抜きだせるようにする。マイ黒板を活用し、思考を整理できるようにする。</li> <li>文を書くことへの抵抗を減らしたり、学習した漢字を使ったりできるようにするため、デジタルドリルで繰り返し学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テストで平均80点以上取れているかで評価する。</li> <li>ノートの記述を見て評価する。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容と自分の生活との関わりを踏まえながら理解できている。</li> <li>意欲的に学習に取り組み、ノートにまとめている。</li> <li>意識的に資料を活用し、読み取る活動をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図記号の定着に個人差がある。</li> <li>調べる活動の後、考えたことまで表現できるような手だてが必要である。</li> <li>資料の着目するところを見つけられるような手だてが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小平市の地理的環境、地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、自分の生活との関わりを踏まえて理解させる。</li> <li>地域ではたらく人の工夫や努力に気付けるように、実際の見学も行う。</li> <li>学習者用端末を活用し、資料の見方を説明したり、自分たちで資料を見つけさせたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テストで80%以上とれているかで評価する。</li> <li>振り返りやノートの記述を見て評価する。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題文を図や言葉で説明できる児童が増えてきている。</li> <li>前学年のベーシックドリル診断テストでは、かけ算九九や、くり上がり、くり下がりのある2桁のたし算、ひき算、分数、数の構成が身に付いている児童が増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位換算が苦手である。特に、長さやかさ、時間を一つの単位で表すことに課題がある。</li> <li>表にまとめる際に、数え落としや重なりがあるのに気が付かないことがある。</li> <li>文章をよく読んで考える力を身に着ける必要がある。</li> <li>九九が身に付くように丁寧な指導が必要である。</li> <li>特別に支援を要する児童への手厚い指導の時間を確保する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の時間を活用して、計算をしたり、図形に使う用語を習熟させたりする。声に出して問題を讀んだり、場面を図に表したりする活動を必ず行い、どの児童も問題を正しく読み取れるようにする。</li> <li>朝の時間や宿題でタブレットドリルを活用し、習熟をはかる。</li> <li>身の回りの物の長さを cm や m、km だけで表したり、普段飲んでいる飲み物などのかさをも mL や dL、L だけで表したり、時刻や時間を聞く機会を多くしたりして、日常生活で活用できるようにする。</li> <li>物を数えるときに印をつける習慣を付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段のワークテストで、80%以上とれているかで評価する。</li> <li>東京ベーシックドリルの診断テストで、80%以上とれているかで評価する。</li> <li>ノートやホワイトボードに自分の考えを書く時間を確保し、説明ができていのかどうかで評価する。</li> <li>CRT テストの変容で評価する。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の導入や単元末に動画を見て学習を深めている。</li> <li>問題に対して必ず予想を書き、実験に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が問題作りの段階で「確かめたい」と思う導入ができていない。</li> <li>児童が予想や気付いたことをノートに書く力を身に付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題作りの段階で体験や実験を通して確かめてみたいと切実に思えるような活動を計画する。</li> <li>児童一人一人が自分の考えをもった状況で実験をするようにする。</li> <li>学習支援ソフトの映像や写真などの資料を有効に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題作りの授業では、記述から良い気づきや問題にコメントを書き、評価していく。</li> <li>手本となるノートを掲示していく。</li> </ul>

<p><b>音楽</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽器の音色などを聴き取ったり、リズム打ちは体などを使って表現したりすることで、表現力が豊かになってきている。</li> <li>リコーダーの演奏は、姿勢や息の量に気を付けて取り組んでいる。</li> <li>曲想を感じ取り、楽曲の特徴を気付くことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リコーダーの運指指導を繰り返し行う必要がある。</li> <li>楽器の音色や声の音色を意識しながら取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞やさし絵から情景を読み取らせる。</li> <li>グループやペアで発表することで曲のよさや表現することの素晴らしさを身に付けさせる。</li> <li>ワークシートを用いて楽器の音色などを視覚化し、音楽表現について考えながら演奏させる。</li> <li>音楽を構成している要素に着目させ、フレーズを意識する演奏になるように努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート他の提出物で評価する。</li> <li>実技テストで評価する。</li> </ul>
<p><b>図画工作</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面や立体など様々な作品を、想像力を働かせて作っている。</li> <li>授業中に友達が作った作品を紹介することで、友達のよさを認めたり、自分の作品にアイデアを取り入れたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>想像したことを表現できるような丁寧な指導が必要である。</li> <li>主体的に活動することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料や用具の使い方を提案することで改善に努める。</li> <li>「造形遊び・作品製作」と鑑賞のセット型学習を推進する。</li> <li>作品をつくった後に必ず鑑賞を行い、言語化することで「自己理解・他者理解」を深める。</li> <li>画一的なテーマ題材ではなく、描くものを自分で決めることのできる題材を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品の製作過程や振り返りカードを通して、思いを表現するために必要な材料や色などを選択することができたか評価する。</li> </ul>
<p><b>体育</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動量の確保ができている。</li> <li>毎時間、学習カードを活用して、めあての設定と振り返りを行っている。</li> <li>動画を見て、ポイントを視覚的に捉えている。</li> <li>考えを交流することで、動きにつながられるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に取り組む姿勢はあるが、技能差が大きい。</li> <li>特に水泳の技能面において、個人差が大きい。</li> <li>運動の仕方を考えたり、自分なりの気付きや疑問をもったりするなどの思考力に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの授業でも、運動の時間や回数を多くするように心がけ、運動量の確保につなげる。</li> <li>自分の工夫したことを友達と伝え合い、次につながるように振り返りを行う。児童が学習カードに記入した振り返りの言葉などを次時の授業につなげる。</li> <li>水泳学習の実施回数を増やし、経験を積ませる。技能目標を提示し、自分に合った練習方法等で技能達成を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元を通して学びに向かう力、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」等をバランスよく見取れるよう、計画的に評価する。</li> <li>体育カード等振り返りの記述で「思考力・判断力・表現力」等を評価する。</li> <li>自らの動きを動画で記録して、課題を考えさせるようにする。</li> </ul>
<p><b>外国語活動</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語に対して抵抗のある児童が少ない。</li> <li>外国語に親しみ、楽しく歌ったり、友達と会話をしたりしていて、全体的に意欲的である。</li> <li>振り返りカードを使った、一単位時間の授業内容や自分のことをきちと振り返っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しく活動することができていても、使う表現や必要なやりとりがおろそかになることがある。</li> <li>全体の場で自分の意見を外国語で発表するときに、自信をもって話せるような手だてが必要である。</li> <li>自ら関わることができるように丁寧な指導を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使う表現や必要なやりとりの練習を何度も行い、話すことや聞くことが慣れてから児童同士のコミュニケーション活動に移行する。</li> <li>話型にこだわった指導にするのではなく、単語レベルでもやりとりができる安心感を与えるような活動の場を確保する。</li> <li>学習支援ソフトを用いて、動画の視聴や音声を通して、発音のニュアンスをしっかりと聞き、真似する活動を通して慣れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語を使った教師やALTの質問に答えることや会話のやりとりができているかを評価する。</li> <li>ペアやグループなど、意欲的に自らコミュニケーションを図ろうとしているか観察し、評価する。</li> <li>振り返りカードを活用して評価する。</li> </ul>
<p><b>道徳</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のこととして考えたり、自己の行動を振り返ったりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分を振り返ることができたが、実践に至るような手だてが必要である。</li> <li>自分の考えを書くことができる力を身につける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な考えを共有できるように、学習支援ソフトを活用したり、ワークシートを工夫したりする。</li> <li>全体での話し合いでは、友達の意見を最後まで聞くように意識させたり、自分の考えと比べたりするように声掛けをする。</li> <li>ワークシートを活用して、自分のことについて書く活動を積み重ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の発言、つぶやきで評価できるようにメモをとる。</li> <li>振り返りに今まで、<del>←</del>これからの自分について記述できたかで評価する。</li> </ul>